## 60 GHz 帯ミリ波アンテナ集積量子井戸位相変調器の 実現に向けたボウタイアンテナの設計

Bowtie Antenna Design for 60 GHz Band Millimeter-Wave Antenna Coupled Optical Phase Modulator 横国大院工¹ ○根本 匠¹, 荒川 太郎¹

Graduate School of Eng., Yokohama National Univ. 1 °Takumi Nemoto¹, Taro Arakawa¹ E-mail: nemoto-takumi-bk@ynu.jp, arakawa-taro-vj@ynu.ac.jp

【はじめに】 近年の情報通信社会の世界的発展に伴い、無線通信の高速化が求められている. その中で注目を集めているのが、通信速度に優れる 60GHz 帯ミリ波を用いた無線通信である. しかし、ミリ波は遮蔽物の影響を受けやすく、大気中での減衰が大きい. そのため、ミリ波を長距離通信に用いる際には、ミリ波を光信号に変換して伝送する光ファイバ無線(RoF)技術の利用が必要である. この技術において、アンテナー体型の光変調器の存在が求められる. 先行研究では、Silicon-on-Insulator(SOI)基板を用いたボウタイアンテナ集積光位相変調器[1]や、InP 量子井戸を用いた方形パッチアンテナ集積光位相変調器[2]が実証されている.

そこで本研究では、60 GHz 帯ミリ波に対応 したボウタイアンテナと量子井戸を集積した アンテナ集積光位相変調器の実現を目指し、ボ ウタイアンテナの設計・最適化を行った.

【デバイス構造】 Fig.1 は、デバイスの概要図である. 導波路層には PIN 構造を導入している. これにより、コア層である真性半導体層に集中的に電界を印加できる. また、導波路周囲を BCB で囲んでいる. これにより、アンテナで生じた電界を導波路に効率的に印加できる. また、導波路のコア層には 1.55 μm 帯で動作する InGaAs/InAlAs 5 層非対称結合量子井戸(FACQW)を組み合わせたものを採用している. FACQW は、量子閉じ込めシュタルク効果(QCSE)による大きな屈折率変化と低吸収損失特性が得られる[3]. アンテナには、ボウタイアンテナと方形パッチアンテナを連結したもの[1]を採用している.

【アンテナ設計】 有限要素法シミュレータ (HFSS) による電磁界解析を行った. 解析では、ボウタイアンテナ長 L、頂点部の角度  $\alpha$ 、そして変調部長 W に着目し、入射波電界 $E_0$ に対するコア層への印加電界 $E_z/E_0$ と、 $E_z/E_0$ が最大になるときの周波数 $f_p$ を調査した. そして、Fig.2 のような解析結果をもとにアンテナ形状の設計を行った. さらに、設計アンテナと方形パッチアンテナ[2]における  $60\sim65$  GHz 間の $E_z/E_0$ を比較した.

その結果、Fig.3 のように設計アンテナが方形 パッチアンテナよりも、全ての区間において  $E_z/E_0$ が大きいため、設計アンテナの優位性を示すことに成功した.

## 参考文献

- [1] X. Zhang et al., J. Light. Technol. 32, 3774 (2014).
- [2] Y. Miyazeki et al., Opt. Express 28, 11583 (2019).
- [3] T. Arakawa et al., Jpn. J. Appl. Phys. 50, 032204 (2011).

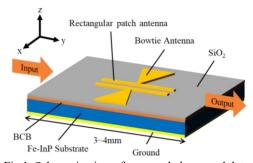


Fig.1. Schematic view of proposed phase modulator

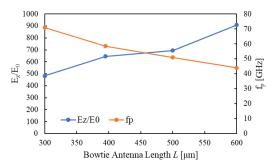


Fig.2.  $E_z/E_0$  and  $f_p$  as functions of L( $\alpha = 60^{\circ}$ ,  $W = 700 \mu m$ )

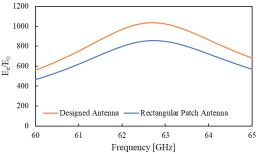


Fig.3. Comparison between Designed Antenna and Rectangular Patch Antenna ( $L=450~\mu m,~\alpha=30^{\circ},~W=300~\mu m$ )